



たろう通信

小齊太郎 (こさいたろう) からのご報告

Jan.2015

Vol.31

編集発行：小齊太郎後援会

共同編集：こさい太郎を育てる会

e-mail: taro@kosaioffice.com

URL: <http://www.kosaioffice.com/>

080-4404-6781

ご挨拶

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。大変ご無沙汰しておりますこと、平にご容赦ください。また、これまで様々なかたちでご指導、ご支援を賜って参りましたこと、心より厚く感謝と御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

一昨年の参院選敗退をもって政治の最前線から退き、生活の本拠を山梨に移してからすでに一年あまりが経ちました。ウイスキーで有名な白州という場所にある白州郷牧場という農業生産法人に勤めながら農業を学び、農業と里山の営みを通じて社会と自分を見つめ直しています。おかげさまで、家族ともども元気に生活しています。

山梨に移った後、お世話になった多くの皆様に私の心境と現況をお伝えしなければならなと思っています。電子メールや FAX などを活用してお伝えして参りましたが、費用と時間のかかる郵便によるご報告(たろう通信の発行)は先送らざるを得ず、現在に至ってし

まいました。本日ここに、大変遅ればせながら、ご報告の書面をお届けいたしますので、お許し下さい。また、相変わらず文字ばかりの通信となってしまいましたが、ご一読賜れば幸いです。

さて、前年末、衆議院の解散総選挙が行われました。安倍自民党圧勝に終わりました。真に経済を回復させる肝の規制改革は？増税の前の歳出削減は？憲法改正なき集团的自衛権行使容認は戦争に参加できる国への大転換では？特定秘密保護法は、官僚による情報統制社会に繋がらないか？私としては、疑問と懸念だらけでした。

ただ、今は、里山で自然に触れ、汗を流しながら、あるべき社会、あるべき自分を探し続けようと思います。既成の政治にかかわるほとんどの人々は、特権階級に見えてしまします。特権階級に社会の大変革は担えないと思うのです。東京でも、汗を厭わず働く人々とともにありました。その点、今も同じです。

本紙目次…

P1 ご挨拶

P2 政治から農業へ、転身の理由

P3 朝日新聞・取材記事

P4 山梨を選んだもう一つの理由

子どもの村学園の存在

P7 みんなの党・離党報告

その後の解党に思うこと

P10 白州郷牧場での毎日

P11 牧場の紹介と商品のご案内

P12 NPO 法人 東京 Herald

ご紹介と活動予定のご案内

そして今は、私も同じく汗をかいているつもりです。20代前半から政治の世界しか知らなかった私に足りなかった部分を、遅ればせながら今、補っているつもりです。

東京を離れた理由、皆様にご理解頂ければ幸甚に存じます。

小齊太郎

皆様へのお願い

この度、お世話になった皆様にお送りしようと本紙を作成しました。最少で約 5000 通、郵送料と印刷費などで約 60 万円かかる予定です。一年間かけて少しずつお届けするつもりです。それにあたり、「一口 1,000 円」のご寄附をお願い致たく存じます。発行趣旨にご賛同頂き、ご支援・ご協力賜りますようお願い申し上げます。

みずほ銀行 青山支店 普通預金

2031904

小齊太郎応援団

郵便振替口座

00130-4-353057

こさい太郎を育てる会

皆様へのお知らせ

小齊太郎のすまい

〒 400-0111 山梨県甲斐市竜王新町 1373-4-A202

TEL/FAX 055-207-3225 携帯 080-4404-6781 メール taro@kosaioffice.com

小齊太郎の勤め先：株式会社 白州郷牧場 (取締役執行役員)

〒 408-0313 山梨県北杜市白州町横手 2259-1

TEL 0551-35-4520 FAX 0551-35-0132

すまいの方は小さなアパートのため、残念ながら皆様をお招きするのは困難な環境です。その代わり、私の働く白州郷牧場は、甲斐駒ヶ岳の麓に広がる自然豊かな里山です。泊まって頂ける古民家もあります。ぜひ一度遊びにいらして下さい。お待ちしております。

また、お金がかからない発信方法として、facebook とメール通信を活用しています。ぜひアクセスしてみてください。メール通信ご希望の場合、taro@kosaioffice.com までその旨メールをお送りください。

Facebook のアドレス： <https://www.facebook.com/kosai.taro>

政治の最前線を離れ、 里山で「農」修行を決意

一昨年前の参院選敗退直後に、皆様にお送りした文章です。私自身の将来への思いは、この時決意した方向で、今、実際に取り組んでいます。

2013年7月22日記（一部修正・要約）

みなさん、

この度の選挙におきましては、絶大なるご支援を頂き、本当にありがとうございました。こさいたろうの政治家人生のすべてをかけたつもりですが、力及びませんでした。金なし、組織なし、こさいたろうを応援して下さいの皆様から支援の輪を広げて頂きましたが、壁を打ち破るには至りませんでした。

もっと多くの方々に、もっと強くお願いを重ねるべきだったのではないかと、もっと自分の足を使って、もっともっと数多くの方々に直接お会いすべきだったのではないかと、省みて、思うところは数多くあります。これが、こさいたろうの実力そのものです。

応援を頂いたすべての皆様に、参議院に議席を得てご期待に応えることかなわぬ結果となり、深く深くお詫び申し上げます。申し訳ございませんでした。

ただ、今回の選挙は、強力に応援して下さいの皆様が、それぞれできることを精一杯、しかも手弁当で担って下さいました。日本全国のご友人やご親戚の皆様にお呼びかけ下さいました。街頭遊説や電話かけ、インターネット活用など、大車輪で活動にあたって下さいました。私は日々、清々しい気持ちで、活動し続けることができました。これまで港区議として手がけてきたこと、これから参議院に乗り込んでやりたいこと、ブレない・曲げないこさいたろうは必ずできるということ、まっすぐに訴え続けることができました。当選するためだけに志を曲げたり、媚びたりすることは全くなく、堂々と戦うことができました。

これは、こさいたろうが挑んだ7回の選挙すべてに共通します。このような戦いをさせて頂いたことは、私の誇りです。

これまで、こさいたろうの挑戦にお力を賜りました全ての皆様に、改めまして心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

衆院選後、使い果たすまで挑み続けるのと

決意で、今日まで前進して参りました。そして、使えるべきものを使い果たしました。現時点で、政治家としてこれ以上の前進は困難な状況となりました。かけがえのない家族を路頭に迷わせる訳にはいきません。そのぎりぎりの局面まで参りました。

現状を厳粛に受け止め、私・こさいたろうは、政治の最前線から一旦離れることを決断致しました。政治の世界一筋に歩んできた男であり、43歳から新たな生活の糧を得ることはもちろん容易ではありません。厳しい道を覚悟しています。それでも、家族3人で慎ましい生活を営めるよう努力致します。

実は、少し考えていることがあります。

これまでは、さまざまな現場の皆様の声を受け止め、よりよき社会にするために制度や仕組みを変える仕事、つまり政治に携わってきました。人生の転換を迫られている今、究極の現場ともいえる「食料の生産」、つまり農業の現場に携わってみたい、と考えています。これも、お手軽に始められるとは全く思っておりませんが、共感できる指導者のもとで、一から修行する覚悟で、挑戦してみたいと思っています。

先に、「政治の最前線から一旦離れる」と述べました。私はこれまで、現場の皆様の声をお聞きすることはあっても、現場の人間になったことはありませんでした。とりわけ、農業という生きることに欠かせない現場で汗を垂らして働くことで、生きるということ、生かされているということの本質を考えてみたいと思っています。

バッチをつけている議員だけが政治家ではない、と思っています。

生きること、生かされていることに深く思いを巡らせながら毎日を生き、いつか乞われるかもしれない再登板に備えたいと思っています。乞われる可能性はほとんどないかもしれませんが、19年間、政治の道を突き進んできた政治家の矜持です。笑われるかもしれませんが、最前線を離れても、死ぬまで自分は政治家であり続けたいと思っています。したがって、自らの政見は発信し続けようと思っています。

これは、今の時点で私が考えているだけのことであり、思い通りに進めるかは全くわかりま

せん。ただ、政治以外の世界で、新たな人生を始めることは間違いありません。

政治の世界しか知らない私にとって、残された財産は応援頂いている皆様だけであります。ぜひとも、小斉太郎・第二の人生に対しましてもご指導賜りますよう、心よりお願いを申し上げます。

最後に。

参議院議員選挙は、自民党圧勝の結果に終わりました。民意を厳粛に受け止めなければならないものの、自民党の政権運営が期待通りに進むかどうか、厳しく注視しなければなりません。

自民党一党支配、既得権維持温存、骨抜き改革、際限なき財政出動...

安倍首相がいくら改革を叫んでも、その屋台骨たる自民党議員は旧来の既得権支持基盤に支えられています。古い政治に先祖帰りする懸念は拭えません。これに加えて、極端な右傾化への懸念もあります。

国民が最も期待する経済政策、とりわけ徹底した規制改革が骨抜きにされずに進められるよう、改革を強く促す必要があります。また、消費税増税まで国民に強いる状況で、身を切る改革、歳出削減は必須です。徹底した行政改革が行われるかどうか、厳しく監視し、実行を迫る必要があります。

私が先頭に立って担いたかったのですが、叶わぬ夢となりました。ぜひとも、同志の奮闘を強く期待しています。

皆様が政治に参加することで初めて社会に変化が生まれます。万が一、政治をあきらめてしまえば、その瞬間に変化の可能性はゼロになります。「政治をあきらめないで下さい」。私から皆様に、伝えさせて下さい。

政治に注目し、問題あれば厳しき声を政治に届けていくこと。それが、期待する改革を進め、社会を変化させることになると思います。遠回りなようですが、それしかないのだと思います。

以上、参議院選挙を終えて、皆様への感謝の気持ちをお伝え致しますとともに、私の心境、これからの行く末についてご報告させて頂きました。乱筆乱文、ご容赦下さい。

くれぐれもお体にはお気をつけ下さい。

これまでのご厚情に改めまして感謝申し上げます。本当に、本当に、ありがとうございました。今後とも、一人の人間として歩みを続ける小斉太郎を、何卒よろしく願い申し上げます。

農業修行中！

あれから一年が経った。

8月30日、山梨県の甲斐市竜王で家族と新しい生活を始め、9月9日、北杜市白州町の白州郷牧場で働き始めた。農業の経験は一切なし、東京都心を離れて暮らしたこともなし、会社勤務の経験もほとんどなし。こんな自分に何ができるのか、本当にやれるのか、続けていけるのか。すぐに働き出さなければ生活を営めないという現実もあり、そんな不安を胸にしまい、清水の舞台から飛び降りた。

そして一年が経った。

季節のサイクルで動く農の現場を、まず一巡り経験したことになる。体得しなければならぬことはまだまだ



山ほどあるが、もう「新人」とは言えない自分がここにいる。今の率直な気持ち。まず、ど素人の私を迎え入れてくれた椎名代表と、一から現場の作業を教えてくれている牧場の仲間たちに感謝。東京と政治から同時に離れた私を引き続いて励まし応援してくれる多くの友人に感謝。そして、何よりも先を見通せない決断にもかかわらず、縁もゆかりもない山梨で暮らすことに同意してくれた妻と子、家族・親族に心から感謝している。

これからの一年、その先。

皆さんに安心・安全、おいしい野菜やたまごを食べて頂くため、牧場の運営状況をチェックする役割も新たに与えられた。与えられた役割を果たすことの中からも、社会のありようを見つめ、考察していきたいと心に秘めている。それが、私自身が農業の世界に飛び込んだきっかけの一つだから。

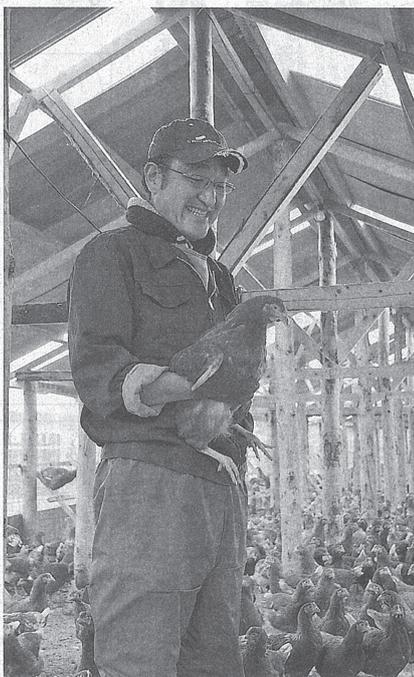
「思えば遠くへ来たもんだ」

中学生の頃から、なぜかこの歌が好きだった。今、自分と重ね合わせている。「故郷離れて6年目、遠くなるよな気がします」、詩の中にこんなフレーズがある。ここだけは違う。この里山と私の故郷である都会をもっと近づきたい、繋げたい。思いを新たにしている。

(小齊 太郎)

◀朝日新聞 2014年8月14日掲載

020 小齊太郎、44歳。港区議から衆参院選挙に出て…



落選 自分見詰め直す

有権者の声を聴き「一票」を積み重ね、信託にこたえる。政治家の仕事だ。落選は、その仕事を見つめ直すきっかけになる。

公認で参院選の比例区に立つたが落選。前年12月の衆院選は、党公認で東京1区から立候補し、落選していた。国政を目指す前は港区議だった。衆院選で落選した当時、内政に秘めていた。農業だ。国の将来を見据えた時、重要度が高い。農業にたずさわる生活を送りたい、と。そして参院選で落選。決断

つかけになる。甲斐駒ヶ岳のふもと、山梨県北杜市に白州郷牧場がある。44歳の小齊太郎は養鶏担当だ。通勤は、古びたグレーの軽ワゴン車。昨年7月まで、扶声機を積んだ選挙カーだった。昨年9月、牧場で働き始めた。その年の7月、みんなの党

「百姓見習い」農業のあり方考える

した。いったん政治の第一線から離れ、農業で自分を見つめ直し、すすむべき道を決めよう。支援者にそう伝えた。「政治家は政治で全うすべきだ」という批判もあったが、思いが勝った。赤坂のマンションから、縁のない山梨県の家賃7万円のアパートに家族で引っ越した。妻は近所のうどん屋で働き始めた。都心育ち。土いじりの経験はほとんどない。長男は小学校入学を控えていた。息子を受験の環境に置きたくない。スタナシの学校が山梨にはあった。

午前8時過ぎにケージに入ると、1千羽の鶏が迎える。四つのケージをまわって卵を集めていく。ざっと2千個。黄身はつややかで、白身が盛り上がる。評判の卵だ。それから農作業。野菜を収穫し、パックに詰める。耕作放棄地の実態、農協主導の農業のあり方。農業の現場から遠く離れ、政策として発言していた頃と思いは変わらないか、巡らす。人の

牧場の理念だ。自宅に戻る。家族と食卓を囲む。徳用焼酎を炭酸水で割る。2杯も飲めばまぶたが重くなる。区議時代、スーツ姿で赤坂や青山を飲み歩いた面影はない。自称「百姓見習い」。鶏を抱える格好もさまになつてきた。朝が来たなら野良に出て日が暮れたら眠ります

衆院選では954人

総務省がまとめた最新のデータによると、2012年12月16日投票の衆院選は、1429人が立候補し、約7割の954人が落選。13年7月21日の参院選は、433人の立候補に対し、同じく約7割の312人が落選している。

敬称略 (前出指世)

山梨を選んだもう一つの理由

「子どもの村」という自由な学校が、そこにはあった

- ＊ 山梨に移った理由の一つは「この学校」があったからでした。振り返ると、最大の理由だったかもしれません。
- ＊ おかげ様にて、息子は二年生となり「絶対学校は休みたくない」と毎日通っています。
- ＊ もちろん友達関係での悩みもある様子ですが、それも含めて学校で過ごすことが本当に楽しいようです。
- ＊ これまでのところ、イベントがあると必ず、前に出て何かしゃべる役をやっています。私が悪い影響を与えていないといいのですが（笑）でも、今のところ頼もしく感じています（親バカ）
- ＊ 「自由な学校」の様子、これからもできる限り、みなさんにお伝えできればと思っています。

2013年5月7日記（一部修正 要約）

こさいたろうの子育て日記

ピカピカの一年生（1）

ゴールデンウィークも終わり、梅雨入りまではしばらく過ごしやすい季節を迎えますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。平素、お世話になりっぱなしにもかかわらず、すっかりご無沙汰しておりますこと、お許し下さい。

さて、我が家の一人息子・悠も、この4月からとうとう小学生になりました。7年前、誕生の時の感動は、今も色褪せることなく脳裏に焼き付いておりますが、年月の経つのはあっという間、まさに、光陰矢の如し、です。誕生の際には、みなさまから心温まる祝福を受け、その後も皆様に見守られ、励まされ、支えられ、成長させて頂けることに、心より感謝しております。

<http://bit.ly/10kwtyJ>

こさいたろう父親になる！ 2006/06/28

※ 本文のご参考という趣旨で、インターネットのアドレスを随時掲載しています。ご関心のある方、インターネット環境のある方は、ぜひご覧下さい。よろしくお願ひ致します。

その上で遅ればせながら、皆様にご報告させて頂きます。

実は、息子はこの4月から、山梨県南アルプス市にある「南アルプス子どもの村小学校」という学校に、元気に通っております。

<http://bit.ly/18PmeXb>

南アルプス子どもの村小学校・公式サイト

もちろん東京から通えず、子どもの成長の様子から学校併設の寮生活も尚早と判断し、学校の近くにアパートを借りて、そこから通っています。私は東京、妻子は山梨、の生活を選択しました。

地域の方々に支えられ、育てられ、港区議を13年、港区で政治活動を始めて19年、青山・赤坂地域に住まいして30年のこさいたろうの息子がなぜ、家族が離れて大丈夫なの、とお声が聞こえそうでありますので、この場をお借りして、私たち家族の決断の背景やら、思いやらを、数回に分けてお伝えしたいと思います。

こさいたろうの子育て日記

ピカピカの一年生（2）

【僕ら こさい夫婦 が行ってみたい学校だった】

チャイムなし・テストなし・通知表なし…

子どもが「楽しい」と思うことが出来る

自由な学校

創設者で、今も理事長であり校長の堀真一郎さんはもともと大阪市立大学の教授だったのですが、イギリスのニールという人がつくった「子どもを学校に合わせる」「世界で一番自由な学校」に共感し、大学教授を辞めて、日本にそういう学校をつくりました。初めにできたのは和歌山県で、1992年にさかのぼりますが、その後、全国4カ所に同じような学校を開くことになり、今に至っています。一番新しい学校が、息子の通う「南アルプス子どもの村小学校」です。

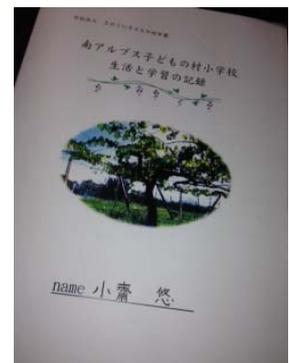
で、どんな学校かという事なんです、なるべ

く簡潔にお伝えすると…。

国語も算数も理科も社会も、先生が黒板を使って教える授業はありません。1年1組みたいな教室もありません。「プロジェクト」という学年縦割りのグループがいくつかあり、それぞれのテーマに応じて子どもたちが手掛けることを話し合っただけで、その目標を達成させるために、自ら調べ、みんなで相談して進めていく中で、いろいろなことを覚えていく、というスタイルです。「大人が教え込む」というのではなく、「子どもが自ら学ぶ」そして「大人はそれをサポートする」という感じです。だから、先生の授業をおとなしく聞くという時間は少なく、ほとんどが、子どもがワイワイやりながら、やりたいことを追及していくという一日を過ごします。

例えば、「クラフトセンター」というプロジェクトがあるのですが、「こんな遊び道具あるといいよね」とな感じで、いろいろ調べる。図面や完成予想図を作る。材料を調達して、みんなで力を合わせて作る。わからない言葉があれば調べる（国語ですね）し、図面を作るには算数も必要になる。材料を加工するのは図工という事になるでしょうか。自分たちの楽しい遊び道具を何としても完成させたいので、自ら進んで学んでですね。僕は、こういう学校に惹かれました。そして、息子は「劇団みなみ座」というプロジェクトを選んだそうです。学校の春まつりでは、早くも「影絵」を上演しました。妻の話によると帰宅後、一言のセリフを覚えるだけなのに、頭で覚えた台本を全て文字に起こしていたそうです。面白いです。

ちなみに、そんなふうで中学生になって学力は大丈夫なの？とよく聞かれるそうなんです、一般の高校に進んだ卒業生の成績は総じて高いそうです。まあ、うちの子は「私」の子なので、その点を考慮して選んだわけではありませぬし、ほとんど期待はしておりませぬ（笑）



こさいたろうの子育て日記

ピカピカの一年生（4）

【きっかけ】

こさいたろうの選挙と、落選と…

息子は、私が港区長選挙に落選・浪人中、港区議会に再挑戦の前年に生まれました。妻が妊娠により、派遣の仕事が続けられなくなり、牛乳配達をしていたのも今ではいい思い出です。

<http://bit.ly/YqVt9W>

こさい太郎の素浪人生活 その5

そして、生後10か月にして「選挙事務所デビュー」。父親の演説を耳にしていました。少し大きくなると、スーパーへの買い物に街宣車で行くこともありました。その後、5歳の時には原発都民投票条例・直接請求の運動ではビラ配りも覚え（選挙運動ではない）、先の衆院選では街宣車の至近に陣取り「父ちゃんの言う事があってる」と、たぶんほとんど理解できない演説を一人最後まで聞き、拍手までしてくれる、一番の支持者でもありました。本当に励まされ、勇気づけられたことは確かです。ただ…

子どもがのびのびと育つという意味では、こういう環境でいいのか、という思いというか悩みも心の片隅にありました。そして、落選…

もしも当選していれば、国会までは最寄りの乃木坂から地下鉄・千代田線で二駅。おそらく、子どもがもう少し大きくなるまでは、40平米のマンションにそのまま住んで、近くの小学校に通う事になっていたのだと思います。しかし…

落選し、子どもの将来について改めて考えることとなりました。いわゆる財産という意味で、何も残してやれない僕たち両親がしてやれることは、自らの足で立ち、自らの足で進んでい



こさいたろうの子育て日記

ピカピカの一年生（3）

【子ども自身の意思表示】

「南アルプスに行きたい！」

息子は、生まれてから一度たりとも、親から離れて夜眠り、朝起きたことがありませんでした。あんなに大好きなじいちゃんやばあちゃんのうちにも、一人で泊まりに行くことは拒んでいました。

でも、この学校を2月に見学し、もしも入学するには2泊3日の宿泊体験が必要と分かりました。学校では、「子どもが行きたいと思うか」どうか最も重要だという事で、学力試験も親の面接もありませんが、この「体験」を考査の機会としているわけです。息子は、少し悩んでいましたが、「行く！」と申し出ました（後でわかったのですが、悩みのもとは「おねしょ」でした（笑））。覚えてたの文字で「南アルプスに行きたい」と、その理由を記した手紙も書きました。

体験までの間、不安はあったようですし、2泊目の夜はホームシックで泣いていたようですが、体験後も思いは変わらず、迎えに行くや否や「この学校に行く」としっかり申し出ておりました。

「こんな学校に行かせたいな～」という親の気持ちを無意識に斟酌しているような感じもして、少しだけ複雑な思いもよぎりましたが、ともあれ、息子本人の意思・決断は、僕たち夫婦の背中を大きく押ししました。楽しく学校に通う息子の様子を見て、よかったな、と思うとともに、正直ホッとしています。

ける、そういうふうな大人になるために必要な環境を与えてやることだけではないかと、強く思うようになりました。そして、僕たちの思いに近い学校が、山梨の南アルプスというところに見つかりました。

こさいたろうの子育て日記

ピカピカの一年生（5）

【悩んだこと】

家族が離れること

地域に育ててもらおうという事…

ただ、大いに悩み、迷いました。

まず、家族が離れて暮らすこと。堀校長からも「あまりお勧めはしない」と言われていました。家族三人が補完しながら生きてきたこれまで、特に子供に夫婦（母父）が補ってもらうこと大なる中、バランスが崩れてしまう、何より子どもにとって家族がそろって暮らすことが最も重要ではないかと、悩みました。しかし、結論としてはご報告の通り。子どもの成長過程や親子の関係を僕たちなりに振り返り、「これまで支え合ってきた家族だから多少離れても大丈夫」と判断しました。さらに、参院選に挑むにあたり、東京で一緒に暮らしても朝晩会う機会は極端に減ることが想定されましたし、背水の陣で全力投球するには、子どもとの時間は犠牲にせざるを得ないとも考えました。

次に、子どもの「育ち」の環境。

まずは、子どもの体が大きくなり続ける中、今でも家が狭すぎる。かといって、都心・港区で住まいを移る経済的環境にもない。これ、実は大きかったです。もう少しでも広い場所で育てたかったのです。

それと、これは誤解を恐れずに言います。中学受験を考えなくていい環境で育てたかったという事。僕たち夫婦は二人とも受験で私立中学校に通っていましたが、自分たちと比べてのびのび自由に育ててほしいというのが二人の共通の思いでした。正直、受験させ、通わせる経済力に不安があることも一因です。港区では半数以上の子どもが中学受験をするといわれており、僕たちの思いとは環境が異なります。言うまでもなく、それぞれの選択があり、僕は自由な選択を尊重致します。どっちが良くどっちが悪い、などという考えは毛頭ありませんが、これが僕たちの決断でした。

さらには、なるべく自然に近い、空の見える、土のにおいのするところで育てほしかった、という事もあります。これも、都心で育った僕たち夫婦の共通する希望で、生きる力の若干不足すると自認する二人にとって、子どもにとって必要な環境と考えました。これも、そうでないから悪いなどという事は決してありませんが、僕たちは選択しました。

地域に子どもを育ててもらうという事。これも考えさせられました。消防団の仲間、町会・商店会やお祭りの皆さん、同じマンションのおばさんやおじさん、近所のお店の人たちやミッドタウンのお姉さんなど、多くのおとなの方と関わり、見守られ、我が家の息子は育てて頂きました。本当に感謝しています。このまま、温かい皆さんに囲まれて大きくなっていくことにも大きな幸せがあるものと確信します。でも、そのことを含め考えて出した結論が、「南アルプス子どもの村小学校」への進学です。どうかご理解賜りたく思います。そして、僕ら親子にとっての心のふるさは青山であり、赤坂であることに変わりはありません。どうか引き続きのご厚情賜れば幸いです。

お金のことも考え、悩みました。書くかどうか迷いましたが、隠しているようで嫌なので、書きます。小さなアパートを借り、学費もあるので、それなりにお金がかかります。僕は、参院選にかけますが、万万が一落選した場合は、マンションを処分してそれを今後数年の学費に充てることにしています(ローンを差し引いてその位は残るはずなので)。生活については、夫婦でゼロから、政治家であったことを忘れ、汗水たらして働く仕事に厭わず就こうと決

めています。ただ、これは、万万が一の話であり、国政を担う決意に一転の揺らぎもない、という事は、特にお伝え申し上げます。

こさいたろうの子育て日記

ピカピカの一年生(6)

【政治家として】

教育や保育の環境を

自由に選べるという事

僕は政治家として、「選べる教育」「選べる保育」を常に提唱してきました。

憲法・教育基本法・学校教育法・児童福祉法など、今の教育や保育の環境を規定する様々な法令があり、もちろん一朝一夕に実現させることは出来ませんが、人々が「行かせたい」と思う学校や幼稚園・保育園を選べる社会に、ひいては、人々が「作りたい」と思う学校などを自由に作り提供できる社会に変えていきたいと思っています。学校などを「作る自由」と「選ぶ自由」が必要だと思っています。

今の公立学校中心の制度のまま(役所が箸の上げ下げまで指示する制度のまま)では、多様な教育は生まれず、多様な人材は育ちません。国が決めた教育方針に問題点があれば、すべてにその影響が及んでしまいます。「一斉・画一」と言われる日本教育の弊害です。多様な教育スタイルがあれば、その中で多くの方が普遍的価値を認める教育内容は、自然と広く採用されていくはずですが、もはや、役所に任せるべきものではないと思います。

地域の特性に応じて教育が行われる学校があってもいいし、ある理念に従って教育が行われる学校があってもいい、と思うのです。選ぶのは親であり、子どもであるべきです。今のところ大きな課題として取り上げられませんが、僕は、取り除かれるべき社会的規制と思っています。各家庭の経済環境で選択が出来なくなることは避けねばなりませんから、僕は、具体的政策として「バウチャー制度」が望ましいと考えています。税金の使い道を、教育を受ける主体者に委ねるという事です。選んだ学校などに、お金の代わりにバウチャーを渡すという制度です。このことによって、学校などは選ばれることとなります。どんなことがあっても存続するという事にはなりません。選ばれる教育をする必要に迫られるわけです。

成熟した日本社会の中で、お上(おかみ)から与えられた教育内容で、均質な成人を育てることはすでに妥当性を失っています。多様な教育で、多様な能力を有した人材が、それぞれ連携して社会の発展を目指すことこそ、これからの日本社会に求められているものと確信します。おそらく、多くの方がそれに気づいているからこそ、比較的経済的に余裕のある都市部で、私立中学校に進学させるご家庭が増えているのではないのでしょうか。

長くなるので、改めて、この問題については論じたいと思います。とにかくにも、今回、僕自身が子どもの教育を「選ぶ」ことと致しました。理事長・校長の堀さんが仰るように、「子どもの村小学校」は「変わった学校」です。でも、僕は「一斉・画一」教育に収まらない学校と捉えています。「いろんな学校」があってもいいと思うんです。一つの価値観で人々を、特に子どもを覆ってしまう事は決して豊かな社会を創り出さないし、はみ出たものを排除する暗い社会に繋がってしまうと思います。何より、その価値観に万が一誤りがあった時、全く修正が効かない社会になってしまうのです。みんなが「選べる」社会をつくるためにも、今回の決断を活かしたいと、政治家・こさいたろう(小齊太郎)として密かに決意しているところです。

さまざまな感想、受け止め方があると存じますが、是非とも僕たち家族の決断をご理解頂ければと願っています。「変わった学校」については、今後も折を見てお伝えしたいと思っています。「変わっている」ことが「まずいこと」か、皆さんとともに考えていければと思っています。

また、こさいの拙い文章を補足するものとして、作家の高橋源一郎さんの取材記事があります。併せてお読み頂ければ、かなりイメージをつかんでいただけるものと思います。

<http://bit.ly/Yr5Pqu>

高橋源一郎の「南アルプス子どもの村小学校」訪問記：GQ JAPAN 2013/04号

何卒今後ともよろしくお願い致します。

最後までお読み下さり、誠にありがとうございました。ご意見や感想もお気軽にお寄せ下さい。

こさいたろう(小齊太郎)



みんなの党を離れるご報告

- 一昨年末の特定秘密保護法の成立、みんなの党の賛同姿勢を受け、私は離党を決断しました。その思いを綴り、電子メール等で皆様にお送りした文章です。
- その後、昨年末には安倍首相が衆議院解散総選挙を行いました。これが引き金となり、みんなの党が解党しました。この間の私の考えや思いを友人等に伝えた文章も掲載します。
- 皆様のご意見・ご批判を賜れば幸いです。よろしく願い致します。

2013年12月8日記（一部修正・要約）

小斉太郎の決断

特定秘密保護法が成立致しました。

私の所属するみんなの党は、与党と修正協議の末、衆議院では賛成、参議院では与党の運営方法を批判して退席という態度となりました。私、小斉太郎と致しましては、本法が内包する課題を深刻に受け止めており、我が党の対応を注視して参りましたが、本法成立に伴う日本の将来にみんなの党とともに責任を持つことができないと判断し、党を離れる決断を致しました。

党内には、特定秘密保護法のみならず、集団的自衛権の憲法改正なき行使容認の動きもあるようで、私の目指す我が国の将来像と党の方向性が大きく乖離していきつつあることも、決断の一因です。

私がみんなの党に加わり、国政に挑んでいた頃とは、党の目指す針路が変わってしまっていると受け止めています。私は、衆院選挑

戦時の公約において、集団的自衛権の行使については極めて慎重であるべきと訴え、また、あらゆる行政情報は国民共有の情報であり「原則公開」の姿勢を貫く、としていました。もちろん、当時、みんなの党からこの公約についてクレームはありませんでした。しかし、先の参院戦後のみんなの党の示す姿勢は、これら私の信条からは大きく離れてしまいました。

みんなの党を終の住処とするつもりで入党した者として、非常に残念な気持ちで一杯です。しかし、自らの信条を曲げてまで、党に留まる決断はどうしてもできませんでした。

先の衆参選挙において、自らと自らの所属するみんなの党への支援を皆様にお願してきた責任が、私にはあります。しかし、落選し、実質的に一党員の私には、党の方針に影響を与えることはかないませんでした。しか

特定秘密保護法に対する 小斉太郎の見解

- 行政の有する情報は国民の情報、原則公開という風土になっていない。政治や行政の不信の根本原因はここにあり、この解決なくして本法の成立なし。
- 秘密保護が必要な行政情報があることは否定しないが、原則公開の姿勢が明確でない以上、秘密の特定やその運用で、行政に都合の悪い情報が隠される懸念は払拭できず、恣意的解釈が無限に拡大する懸念も拭えない。
- このことにより、国民の知る権利を大きく阻害する状況を生じせしめ、社会の萎縮が始まることを大いに恐れる。
- まずは、明治以来続く、日本の官僚主導社会の変革が急務である。特定秘密保護法の前にはやるべきことあり。それまでは、既存の法律の運用で十分代替できるものとする。
- みんなの党の修正（首相の関与）は、官僚の恣意的秘密指定や運用を一定抑止し得るものとは思いますが、不十分にすぎる。自公過半数の国会において、原案成立よりはましとの考えもあるが、官権拡大を抑えることのできない修正では意味がない。
- 過去の歴史から考えると、国防や安全保障・外交情報が秘密の対象となり、それを官僚だけの都合で扱われると、取り返しのつかない事態にもなりかねない。国民から選ばれる政治の関与が不可欠である。
- 情報が官に統制され、政は官におもねり、広く国民の判断に委ねられることなく、戦争への道へと知らず知らずのうちに進んでしまった日本の歴史を忘れてはならない。
- 本法が成立してしまった以上、秘密を指定できる行政の監視に実効性をもたせる仕組みづくりを急ぐとともに、本法の課題を不断に検証し、必要な改正を必要に応じて速やかに、何度でも行っていくことが政治には求められる。国民も、今後の政権や行政の動きを厳しく注視していかなければならない。

し、私が示してきた基本的な政治信条を曲げることにはできません。

本来ならば、お一人お一人の皆様に私の決断を説明してご承諾を願うのが筋ですが、一方的なご報告となりますことをお許し下さい。また、小斉太郎を介してみんなの党に注目し応援して頂いた皆様に、心からお詫び申し上げます。

今後は、一人の小斉太郎に戻り、甲斐駒ヶ岳の麓で農作業にあたりながら、日本や世界の行方をじっくり考えて参ります。また、一人の小斉太郎として、同志や友人・先輩たちと大いに語り合い、あるべき社会の姿を模索し続けたいと思っています。

約三年、みんなの党の支部長として活動致しました。訴えてきた「官僚主導(官権政治)からの脱却」は、日本社会の変革に必須であることに変わりはありません。原発ゼロ実現のための電力改革も急務です。超高齢化した農村の実態を見ても、農協依存農業の転

換も残された時間は極めて少ない。既得権を守ることに汲々としている社会的指導層の入れ替え、社会システムの変革なくして日本の未来はありません。みんなの党にはこれらの思いを同じくする人々が集まってきました。私もかけがえなき同志を得ました。みんなの党の旗の下に集った有為な人材は、これらに愚直に取り組み続けてくれると確信しています。そして、そういう人たちとともに戦い続けたいと思っています。なお、新党結成の動きが報道されていますが、私の決断には何ら影響はありません。一人の小斉太郎に戻ります。

東京を離れ、日々農作業に従事しているため離党に伴う手続きがすぐにはできないため、以前より浅尾幹事長とお約束の通り、年明け、私が支部長を務める「みんなの党参議院比例第30支部」の解散手続きをもって正式に党を離れることと致します。まずは、その決断を皆様にお伝え申し上げます。

小斉太郎

「あの時、国民が僕に任せてくれたんです」といって、安倍カラーの政策を進めるための、今回は解散総選挙になります。

僕が名付けるとすると、「国民のせいにする解散」でしょうか。

したがって、次の安倍政権は極めて危険だと僕は思っています。つまり、戦争に参加できる国への道に、そのために官僚が情報統制できる国に、変貌を遂げる扉が開くことになると感じます。

日本の国土や歴史を基盤とした「健全な」保守政治家の中から、今安倍さんがやろうとしていることに対抗する軸、旗を掲げる人物が必ず現れると確信しています。そうでなければ、世界の荒波の中で、日本は漂流、沈没してしまうこと必至です。

日本は、世界の大国である必要もなければ、大国になってくれと言われているわけでもありません。日本に与えられた国土の恵みを最も守るべきものとして、日本なりの生きざまを貫くべきだと思います。僕としては、人生の修行の中で、この自らの思いを、深めていきたいと思っています。

最後は脱線してしまいましたが、雑感まで記しました。最後までお読み下さり、恐縮です。今後とも、仲間の皆さんと一緒に勉強を続けたいと思っています。

小斉 太郎

解散総選挙・

みんなの党解党に思う

2014年11月26日記

皆様、おはようございます。標記の件につき、小斉太郎なりの見方や心境をお伝え致します。私としては、里山での修行を続けます。何卒ご理解を賜り、引き続きお付き合い賜れば幸いです。よろしくお願い致します。

小斉 太郎

【解散が決まって・ツイッターに投稿】

大義なき解散ともいえるが、国民に選択の機会が与えられるという意味では極めて重要な解散総選挙。官権政治の我が国も、選挙という最低限の民主主義は機能している。安倍政権とその政策を評価する、国民に

衆議院解散とみんなの党 解党

小斉太郎の思いを綴る

衆議院解散の流れへ

Aさんへのお返事

【衆議院は解散?】

2014年11月13日 5:06 記

Aさん、コレ、やりますね。

僕の見立ては、消費税増税先送り決断の是非を問う、というものになるのだと思います。つまり、安倍は「増税しない」選択をするのではと。

これによって、議席減は覚悟の上で過半数を制し、政治とカネの問題も含めて「国民の信を得た」と。集団的自衛権も特定秘密保護も、原発再稼働も「国民は OK をだした」と。、本当にやりたいことを進めるためには、解散は今しかない、と考えているのではないかと思います。

今を逃し、10%増税実施、ということになれば、経済への悪影響は広がり、政治とカネなどの問題もさらに拡大、安倍政権への支持

は下落の一方になる懸念が大きい。

それならば、「増税先送り決断」を隠れ蓑にして、一旦リセットさせる方が得策だろうと考えているのではないのでしょうか。例え、議席が減っても。解散を先送りすれば、もっと議席が減る恐れもあるわけですから。安倍政権を継続させるためには、ココがリミットと考えているんじゃないかな。

野党も、国民に政権交代後のビジョンを全く示せていませんし、共闘するといっても選挙目当て、国民には見透かされます。そういう意味でも、安倍首相の勝負は「今」なのでしょう。

さらに、安倍首相にとって最も重要なのは、「国民のお墨付きをもらう」ということです。

「なんで選挙なんてやってんだ、選挙の前に仕事してくれ」なんていう意見、よくあるじゃないですか。国民の思いとしては、よくわかります。でも、だからといって政治は待ってくれません。民主政治では、選挙の結果が全てです。



日本農業新聞 2014年7月17日掲載▼

大雪、今は遠い昔のようにも感じます。

山梨県を襲った歴史的大雪は2月。その後、倒壊施設の解体、手作り鶏舎の建設、新しい雛鶏の導入、施設再建に向けた企画・調整、春野菜の準備や収穫、夏野菜の準備から収穫、等々。大雪の被害を乗り越えようと、作業に明け暮れる毎日。振り返れば季節が、春から夏へと巡り、この原稿を書いている今、窓から外を眺めるとすでに初秋の空気が流れています。あ、っという間の半年でした。

加えて、この夏は7月はほとんど雨が降らず、8月はお日様が顔を出してくれる日が少ない不順な天候で、作物の生育にも少なからぬ影響が出てしまいました。人間の思うようには運ばせてくれない自然の厳しさを、冬の大雪にとどまらず痛感させられる、この夏でした。

そんな中でも、雪害前の姿を取り戻しつつある、今の白州郷牧場です。

資材や作業員さんの確保の問題もあり、急ピッチとは参りませんが、一步ずつ着実に復旧・再建が進んでいます。鶏舎の復旧は残すところあと一つとなり、雪害後に導入した雛鶏は成長し、元気にたまごを産み始めています。野菜用のハウスの復旧も残り二区画。復旧ハウスで育てる予定のサンチュの種まきも済ませました。元の姿を取り戻しながら、雪害前の生産量を回復させ、安心・安全な作物を皆様にお届けできるよう、スタッフ一丸となって取り組む毎日です。来年以降チャレンジしたい新しい作物にも思いを巡らせています。

大雪。私たちに厳しい試練を与えましたが、これまでの経営や働き方を見直すきっかけも与えてくれたような気がしています。そして何より、私たちの野菜やたまごが、多くの皆様に愛されていること、そしてその皆様と深く繋がっていることを、改めて気付かせてくれました。雪害を乗り越えたその先に、野菜やたまごを食して下さる皆様と もっと強く、深く繋がる牧場の姿を思い描きながら、作業にあたる毎日です。

農業新聞

(第3種郵便物認可)

雪害克服へ「前向こう」

2月の記録的な大雪から5カ月余り。被災地は、倒壊したハウスの再建を急ぐ。資材・人手不足が依然大きな課題だが、再建は徐々に進んでいる。

山梨県北杜市の産直グループ(白州郷牧場)が、2月の大雪で被災したパイプハウスの鶏舎などの再建を進めている。木造鶏舎を建てて急場をしのぎ、いち早く県外の建設業者にハウスの再建を依頼。6月までに鶏舎9棟のうち4棟が完成し、7月中に全9棟ができる見通しだ。ハウスの撤去として駆け付けた消費者との絆の強さをかみしめ、再建を急ぐ。



椎名さんが陣頭指揮して建てた間伐材の鶏舎 (山梨県北杜市で)

鶏舎の復旧着々 産直グループ消費者も助っ人に

につき180平方メートルで平飼いする。トマトやナスなどもハウス50坪で生産が要因だ。大雪の当目から、インターネットで被災状況を発信、顧客や取引先に写真集を送付し、鶏卵の供給が不安定になることに理解を求めた。その結果、4月末までに延べ300人超のボランティアが訪れ、全ての鶏舎と野菜ハウスを解体できた。

引先に写真集を送付し、鶏卵の供給が不安定になることに理解を求めた。その結果、4月末までに延べ300人超のボランティアが訪れ、全ての鶏舎と野菜ハウスを解体できた。椎名盛夫社長は「取引先を変更しないで再建まで待つ」と言ってくれた生協や消費者のためにも、再建を急ぎたい」と話す。

(こさい たろう)

こさいたろうの働く「白州郷牧場」とは…

この一年あまり、白州郷牧場での生産活動に携わり、土、水、おひさま以外の余計なものを使わずにつくる「やさい」や「たまご」、真に美味しいことを実感しています。

白州郷牧場のにわとりは、日々小屋の中を走りまわっています。そして、急峻な花崗岩をくぐりぬけたミネラル豊富な南アルプス・甲斐駒ヶ岳の豊かな清水を飲み、農場で有機栽培されている野菜や草、発酵飼料をたっぷり食べて育ち、そして元気にたまごを産んでくれます。

白州郷牧場のやさいは、農薬も化学肥料もまったく経験したことがありません。長年薬を撒かずに耕し続けた土と水の力、そして有機の肥やしの助けを借りて育ったやさいたちです。このような環境で育ったやさいは、たくましい味がします。

体にいい、とまで言うと押しつけっぽいですが、余計なものが入っていないということは、少なくとも「体に悪くない」食べ物であり、「安心して食べて頂ける」ことは確かです。それは、元気に生活するために不可欠なことですが、昨今は当たり前とも言えなくなってきたような気がします。

私は今後も現場で、余計なものを入れない農法を学びます。日本の将来を拓く切り札の一つになるはず、と思うので。工場野菜をつくる、的な発想は、真の発展には繋がらない気がしています。

白州郷牧場のたまごや野菜、麴や味噌の加工品などを、実際に現場で働く小齊太郎からお届けしています。折を見て様々な商品をご紹介しますので、気になるものがありましたらぜひ私までご用命頂ければ幸いです。

たくましく味の濃い野菜と元気なたまご、ぜひご賞味下さい。

小齊太郎

いつか・こさいたろう農園 小齊 太郎 (株式会社白州郷牧場 取締役 執行役員)

<https://www.facebook.com/kosai.taro> taro@kosaioffice.com FAX: 055-207-3225

商品のご案内

白州 やさいとたまご フルセット

平飼いたまご10個+旬のお野菜と加工品 (10品)
3,500円 (税別)

白州 やさいとたまご ミニセット

平飼いたまご6個+旬のお野菜と加工品 (5~7品)
2,400円 (税別)

※ セットは 箱代 送料 クール料込みです。※ セットには 白州郷牧場と同じような農法にこだわる全国の仲間たち (生産地) のやさいや果物が入る場合もあります。※ こさいたろうからは 原則 火曜日 金曜日に発送いたします。※ 写真は「白州 やさいとたまごフルセット」一例です。

白州郷牧場の平飼いたまご

20個入り 1,200円 30個入り 1,800円 60個入り 3,600円 (税込)

※ 商品代金の他に 送料 クール料 梱包料 1,000円 (首都圏の場合) が別途かかります



お気軽にご連絡下さい!

- ※ ぜひ一度お試し下さい。
- ※ ご希望の商品の種類や数量をこさいたろう (下記) まで「FBメッセージ メール返信 FAX TELにてお伝え下さい。すぐに、新鮮なやさいやたまごをお送り致します。
- ※ この他にも、白州の水と気候を活かしたお味噌や麴製品なども販売しています。
- ※ また、これら商品につきまして、ビジネスとしてのお取引先も探しています。
- ※ ご関心お寄せ下さる際には、お気軽にお問合せ等賜りますようお願い申し上げます。
- ※ こさいたろう連絡先は…
- ※ FAX 055-207-3225 TEL 080-4404-6781
- ※ FACEBOOK <https://www.facebook.com/kosai.taro>
- ※ E-MAIL taro@kosaioffice.com

特定非営利活動法人 (NPO法人) 「東京ヘラルド」 始動!

これまで、早朝研究会や各種懇親会などのイベントは、私、小齊太郎個人の活動でありましたが、仲間の人々と一緒に作るという意味で、「東京ヘラルド」の活動として行ってきました。

この度、小齊太郎が生活拠点を山梨に移したことを契機として、東京周辺にいる仲間たちとの共同運営のかたちをより明確にすることに致しました。さらに、より多くの方に仲間に加わってもらいたい、より広く発信していきたい、という思いから、より開かれた運営形態である「NPO」を選択し、その法人格を得ました。今後、設立趣旨(別掲)に基づき、さまざまな活動を展開予定です。

何卒、皆様方のご参加、ご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

～ 東京ヘラルドの活動計画(概要)～

東京での研究会・懇親会

01/15 研究会(朝・夜)

メディアの嘘に騙されるな 神山典士氏講演

02/19 新年の集い(夜)

詳細検討中

03/19 研究会(朝・夜)

まじめに取り組む地方議員の主張

04/16 異業種交流会(夜)

詳細検討中

05/21 研究会(朝・夜)

日本農業の将来 若手有力農業者に講師要請中

06/18 MAHARAJA パーティー

詳細検討中

07/16 研究会(朝・夜)

農協改革の必要性 改革派国会議員に講師要請予定

以降、毎月一回、原則・第三木曜日に「研究会」「懇親会」を交互に開催予定です。

山梨・白州での農業・里山体験

毎月・最終の土日開催予定です。

白州郷牧場 みそづくり体験

1/15-4/30 随時開催。要予約。

「わたしのたまご」プロジェクト

現在企画立案中。乞うご期待。

これ以外にも、NPO 理事会ではさまざまなアイデアが出ています。新企画も随時お知らせします。ご希望の方は、小齊太郎あて、ご連絡下さい。また、上記イベントへのご参加表明、お問合せも、お気軽にどうぞ。

会員募集中

年会費 5,000 円

[新鮮やさいとたまご 謹呈(年一回)]

会員として、共に活動を盛り上げて頂ければ、心より嬉しく存じます。入会ご希望の方もぜひ、小齊太郎あて、ご連絡下さい。お待ちしております!

東京ヘラルド 設立趣旨書

「ヘラルド」とは「時代のさきがけ」を意味します。

私たちは、「自由・公正・活力ある日本を拓くさきがけたらん」と決意し、「特定非営利活動法人(NPO法人)東京ヘラルド」を設立致します。

とりわけ、私たちは、「日本農業の再生」が、自由・公正・活力ある日本への扉を開くための重要な鍵と捉えています。

「農は食の礎」であり、私たちの生存基盤そのものであることはもちろんですが、同時に、「農は日本文化の礎」でもあります。先人が古来、田畑を耕すことを通じて自然との共生を図り、豊かな環境を守り育んできました。「農」は、単に食糧供給という役割にとどまらず、「日本文化の背骨」と言って過言ではありません。まさに日本人の日本人たるレゾナントル(存在理由・存在価値)であり、不断に発展させ、将来世代に引き継いでいくべきものです。

一方で、諸外国からの日本農産物への評価は、味・品質ともに極めて高く、産業としてのさらなる発展の可能性を大いに秘めています。また、国際情勢を鑑みる際、食糧自給の必要性も高まっていると言え、この観点からも産業としての農業の重要性は高まっています。つまり、経済的な観点からも、農業が必ずや、「活力ある日本」を拓く原動力になるものと確信しています。

私たち「東京ヘラルド」は、日本文化を守り育むという農業の果たすべき役割を最大限重視しつつ、活力ある社会を担う主要産業としての農業のあり方を追求して参ります。

そのために、以下のような活動を展開するとともに、今後、必要と思われるあらゆる活動(観光の振興を図る活動、農山漁村または中山間地の振興を図る活動、環境の保全を図る活動、子どもの健全育成を図る活動、経済活動の活性化を図る活動等)に、積極的に取り組んで参ります。

- 講演会・学習会の開催… 日本農業、ひいては社会全般の課題を学び、その解決策を模索する
- 農業体験(都市と農村との交流)… 農業や農村の実情に触れることで、あるべき日本社会の姿を考え、未来を担う子供たちに農業の役割や重要性を伝える
- 農業者ネットワークの構築… 社会に有益な付加価値を持つ農産物を提供する生産者を支援し、新規就農や新規参入を促進する

編集後記



4年前、私は4期務めた港区議会議員を任期満了で退任致しました。その後の4年間、前半は国政挑戦に全力を傾け、敗退後、後半2年間は農業という未知の世界に身を置いています。本紙を編集しながら、久しぶりに「来し方」に思いを致しました。自らの意志を貫かせて頂けること、幸せなこと改めて感じています。

4年前の4月は、区議として最後の街頭演説を、港区内各地で朝から夕方まで、6日間実行しました。東日本大震災直後、実施を躊躇しましたが、やってよかったと思っています。多くの声援を賜りましたこと、今でも鮮明に思い出されます。

本年は統一地方選挙の年。4年前、港区では4人のみんなの党新人候補が全員当選でした。が、

今回は、それぞれの思いに従い、所属を変えて戦うようです。4年間の取り組みや姿勢は区民のためになったのか、皆様には厳しく精査頂きたいと思っています。

私は、衆参選挙で身を粉にして応援してくれた皆さん、特に、豊島区議の古堺稔人さんと東久留米市議の佐藤一郎さんの再選のために、微力を傾ける決意です。

「一部の人がおいしい思いをする社会」を変えなきゃ、世の中は変わらず。バッジを目指すか否かに関わらず、私はそう思い続けています。



小齊太郎